

『お金の話～歴史、思想、蓄財～』レポート

2012.9.25 河口 良伍

9月24日（月）に、参加者12名の下、9月定例会が行われました。

テーマは『お金の話～歴史、思想、蓄財～』で、並木和夫さんが講義をしてくださいました。

並木さんにご用意いただいた資料がとても分かりやすいので、講義の内容は、本HPでも紹介されている資料を拝見すれば一目瞭然なのですが、講義の大まかな流れとしましては、貨幣の歴史と貨幣の役割という基礎的な前提知識を教えていただいた後、インフレ・デフレの発生原因とその解消策、それとの関わりで蓄財の善悪、最後におまけとして納税に関する国民負担率のお話をさせていただきました。

並木さんのおっしゃられる「貨幣の価値退蔵機能の否定」、つまり「蓄えられた貨幣は時間の経過とともにその価値が減少していくというシステムを構築することによって、貨幣を消費・投資に仕向け、インフレ・デフレを防いでいく」という考え方は、とても斬新でした。

そして、「無限の蓄財は有害で、適正な貯蓄額を個々に知らなければならない」という結論にも、なるほどとうなづかされました。とにかく貯めることが善だと小さい頃から教えられてきたせいもあって、特に目的もなく漠然と蓄財しがちだったのですが、これが国民経済にとって、ひいては家計にとって良くないとなると、やはり適正な貯蓄額を知るべく、ライフプラン・マネープランをよく練らなければと強く思いました。

ところで、今回のテーマについて、商学部出身の私は、学生時代にそれらしいことを聞いていたのかもしれませんが、当時はちんぷんかんぷんで興味を持てなかったように思います。しかし、今回、並木さんのお話はたいへん面白く、学ぶ意欲を駆り立てられるものでした。並木さんの見識の深さには驚かされるばかりですし、それを平易な言葉で解説してくださったことにたいへん感謝しております。

また、参加者の皆さんの議論もとても盛り上がったように思います。「デフレを解消するためには目標値を設定してお金をばらまいてはどうか」「それは極秘裏にやってこそ効果がある」「インフレになるくらいならむしろデフレ状態の方が家計にとってはましでしょう」など、いろいろな視点から意見を交わすことができ、たいへん有意義でした。

最後に、並木さんの好きな言葉「金持ちがつつましかに暮らす必要がないのと同じように、つつましかに暮らせる人は決して金持ちになる必要がない（ベンジャミン・フランクリン）」は、私自身の心に沁みまし、多くの参加者の皆さんもご納得されていたのではないのでしょうか。

とても楽しく大満足な1日となりました。

以上